



2019年12月12日

株式会社 リクルートライフスタイル

令和初の忘年会・新年会（2019年12月～2020年1月）の動向を調査

想定予算は1回当たり平均4,449円で3年連続増加

「会社・仕事関係」の忘年会・新年会が過去最高の実施予測

「友人・知人」「家族・親族」「趣味・サークル」等は減少傾向

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：淺野 健）の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、首都圏・関西圏・東海圏の男女約1万人を対象として、今年度（2019年12月～2020年1月）の忘年会・新年会（以下、忘・新年会）についての消費者アンケートを実施しました。結果から見えてきた年末年始の宴会シーズンの動向を発表します。

＜要約＞

POINT1 今年度の忘・新年会への参加回数は昨年度並み～微減の見込み

・・・ P 3-5

- 3圏域（首都圏・関西圏・東海圏）合計では、忘・新年会の参加予定回数は「昨年と変わらない」が78.9%。今年度の忘・新年会マーケットは昨年度と大きく変わらない、もしくは、微減と予測される。

【参考】

昨年度（2018年12月～2019年1月）の忘・新年会の平均参加回数は、忘年会1.07回、新年会0.59回。

POINT2 1回当たりの予算は平均4,449円（前年比+54円）で

3年連続で増加の予測。東海圏の増加幅が大きい

・・・ P 6-7

- 今年度の忘・新年会1回当たりの予算は、「5,000円～6,000円未満」（32.1%）と「3,000円～4,000円未満」（22.4%）、「4,000円～5,000円未満」（22.2%）の3つのボリュームゾーン。
- 平均想定予算は4,449円と3年連続して増加（前年比+54円、増減率+1.2%）の予測。
- ただし、増減率の+1.2%は2019年10月の消費税増税分には匹敵していないため、実質の想定予算は前年比マイナスの可能性もある。
- 圏域別では、東海圏の平均想定予算の増加幅（4,448円、前年比+96円、増減率+2.2%）が最も大きく、消費税増税分を超える増加率。

POINT3 「会社・仕事関係」の忘・新年会の実施予定が過去最高の45.1%

「友人・知人関係」「家族・親族関係」「趣味・サークル関係」は
経年で減少傾向

・・・ P 8

- 今年度実施予定の忘・新年会は「会社・仕事関係」（45.1%、前年比+0.2ポイント）が最も多く、続いて「友人・知人関係」（36.0%、前年比-1.3ポイント）だった。「会社・仕事関係」の実施予定は過去最高を記録。
- 上記の「友人・知人関係」に加え、「家族・親族関係」（14.4%、前年比-1.2ポイント）、「趣味・サークル関係」（9.7%、前年比-1.2ポイント）は経年で減少傾向。

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社リクルートライフスタイル ホットペッパーグルメ外食総研
<https://www.hotpepper.jp/ggs/> Eメール問い合わせ：hpg_gs@waku-2.com

調査概要と回答者プロフィール

◎調査名	外食市場調査(2019年10月度)
◎調査方法	インターネットによる調査 首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食マーケット基礎調査)の中で、昨シーズンの忘年会・新年会についての実績や、今シーズンの意向などを聴取。
◎調査対象	首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

■事前調査

①調査目的	本調査の協力者を募集するために実施
②調査時期	2019年9月19日(木)~2019年10月1日(火)
③調査対象	首都圏、関西圏、東海圏に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
④調査内容	本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
⑤配信数	477,675 件
⑥回収数	33,046 件
⑦本調査対象者数	16,153 件

◆本調査対象者の割付について

- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
- ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)=250セルについて、平成29年人口推計(総務省)に基づき割付を行った。
- ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

■本調査

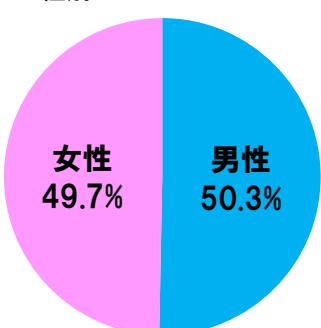
①調査方法	・事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
②調査期間	2019年11月1日(金)~2019年11月8日(金)
③配信数	13,022 件
④回収数	10,071 件 (回収率 77.3 %)
⑤有効回答数	9,995 件 (首都圏 5,113 件、関西圏 2,597 件、東海圏 2,285 件) ※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

◆集計方法について

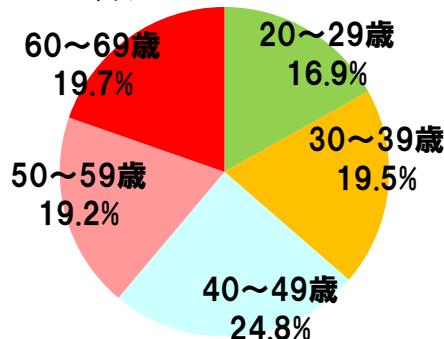
- ・本調査結果は、平成29年人口推計(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分=250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
- ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 9,995 件 (首都圏: 5,720 件、関西圏: 2,748 件、東海圏: 1,527 件)

◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)

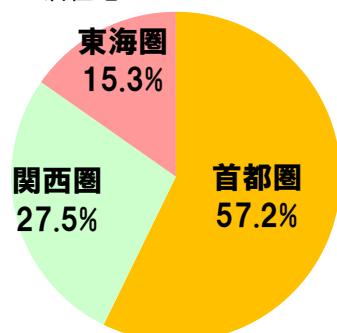
■性別



■年代



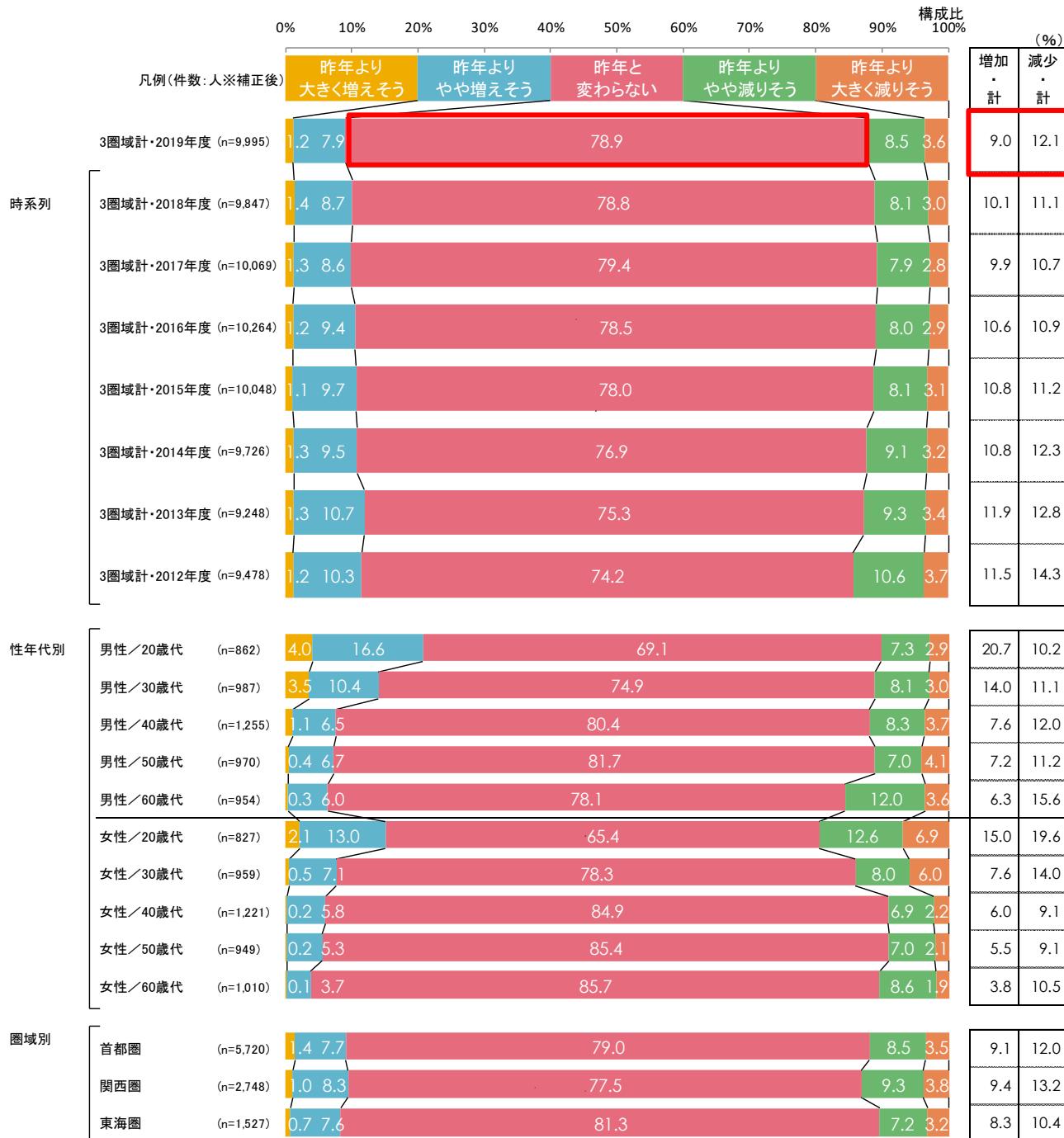
■居住地



1. 今年度の忘・新年会への参加回数は昨年度並み～微減の見込み

今年度（2019年12月～2020年1月）の忘・新年会の参加回数の見込みは「昨年と変わらない」という回答が首都圏・関西圏・東海圏の3圏域合計で78.9%。過去最高の数字を記録した2017年度に次いで、2012年の調査開始以来2番目に高い数字となっている。「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」の「増加派」は計9.0%（前年同調査では10.1%）、「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」の「減少派」は計12.1%（前年同調査では11.1%）で、減少派が増加派をやや上回った。全体として大きな変化はなさそうで、横ばい～微減といった傾向が見られる。後述する昨年度の参加実績では、忘年会で平均参加回数1.07回、新年会で同平均0.59回（共に0回含む）となっており、今年度も同程度の平均参加回数になりそうだ。

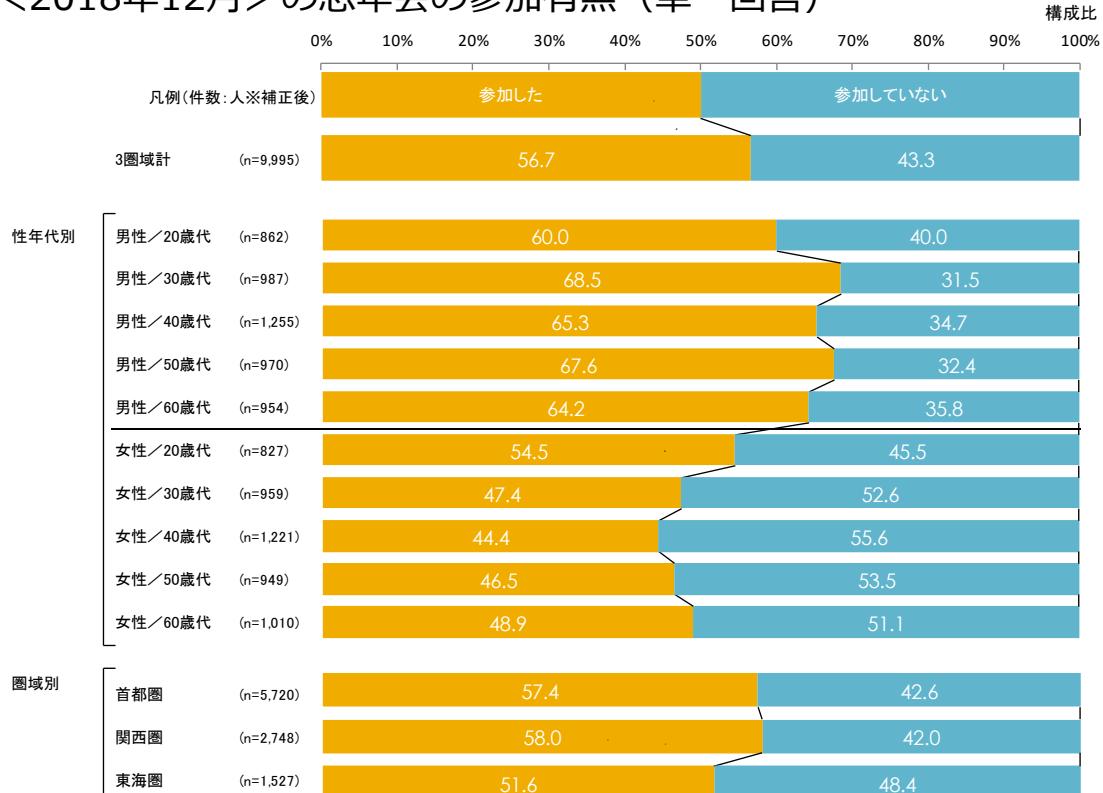
■今年度<2019年12月～2020年1月>の 忘・新年会の参加回数の見込み（単一回答）



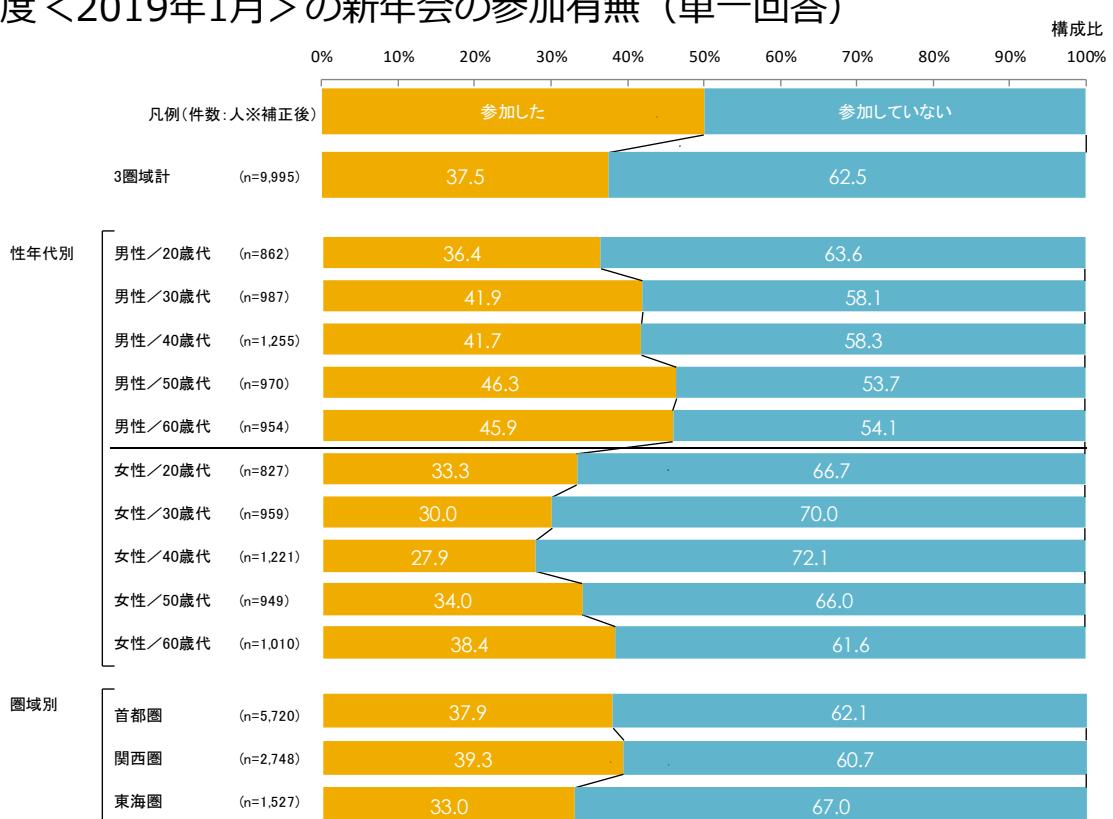
▶増加・計：「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」のいずれかを回答した人
▶減少・計：「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」のいずれかを回答した人

【参考】昨年度<2018年12月～2019年1月>の忘・新年会参加有無

■昨年度<2018年12月>の忘年会の参加有無（単一回答）



■昨年度<2019年1月>の新年会の参加有無（単一回答）

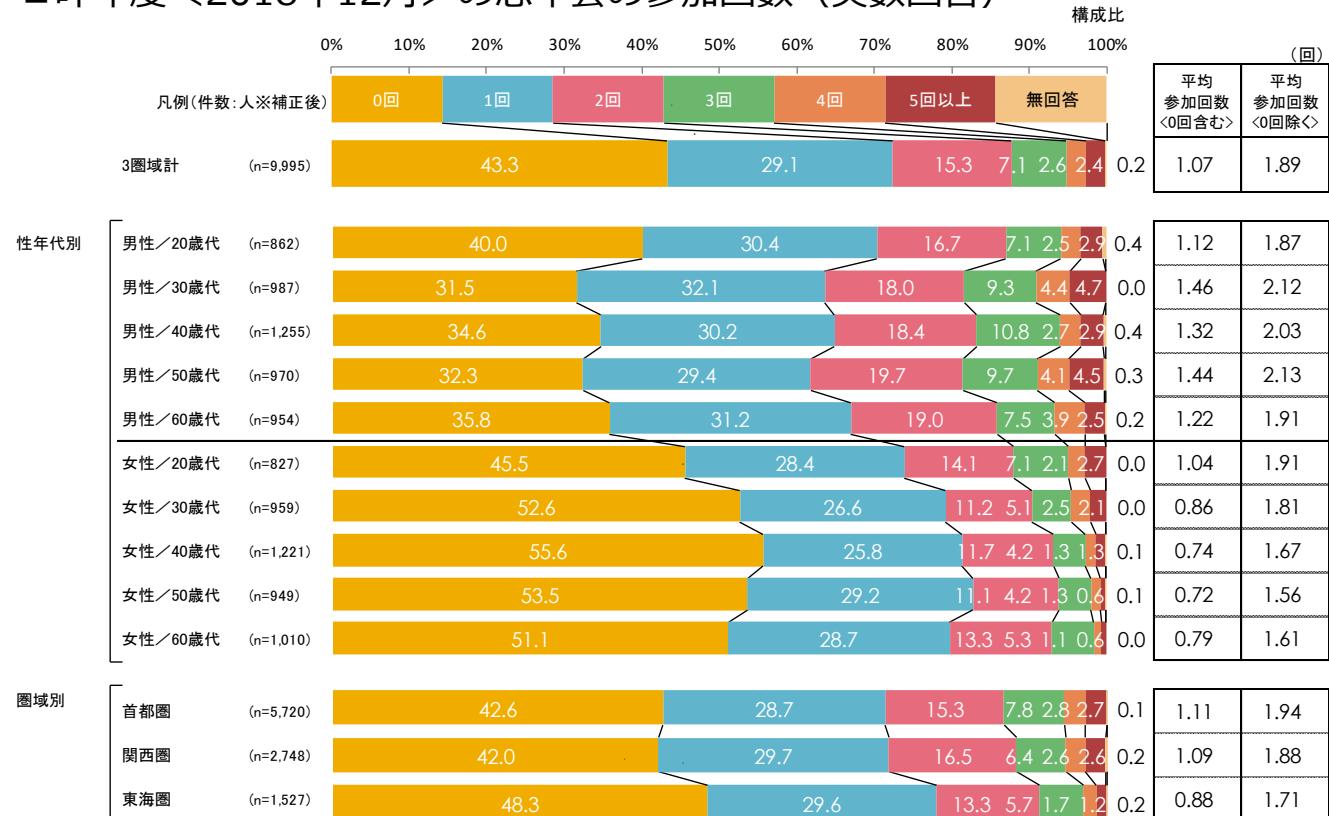


※今回(2019年)調査で聴取

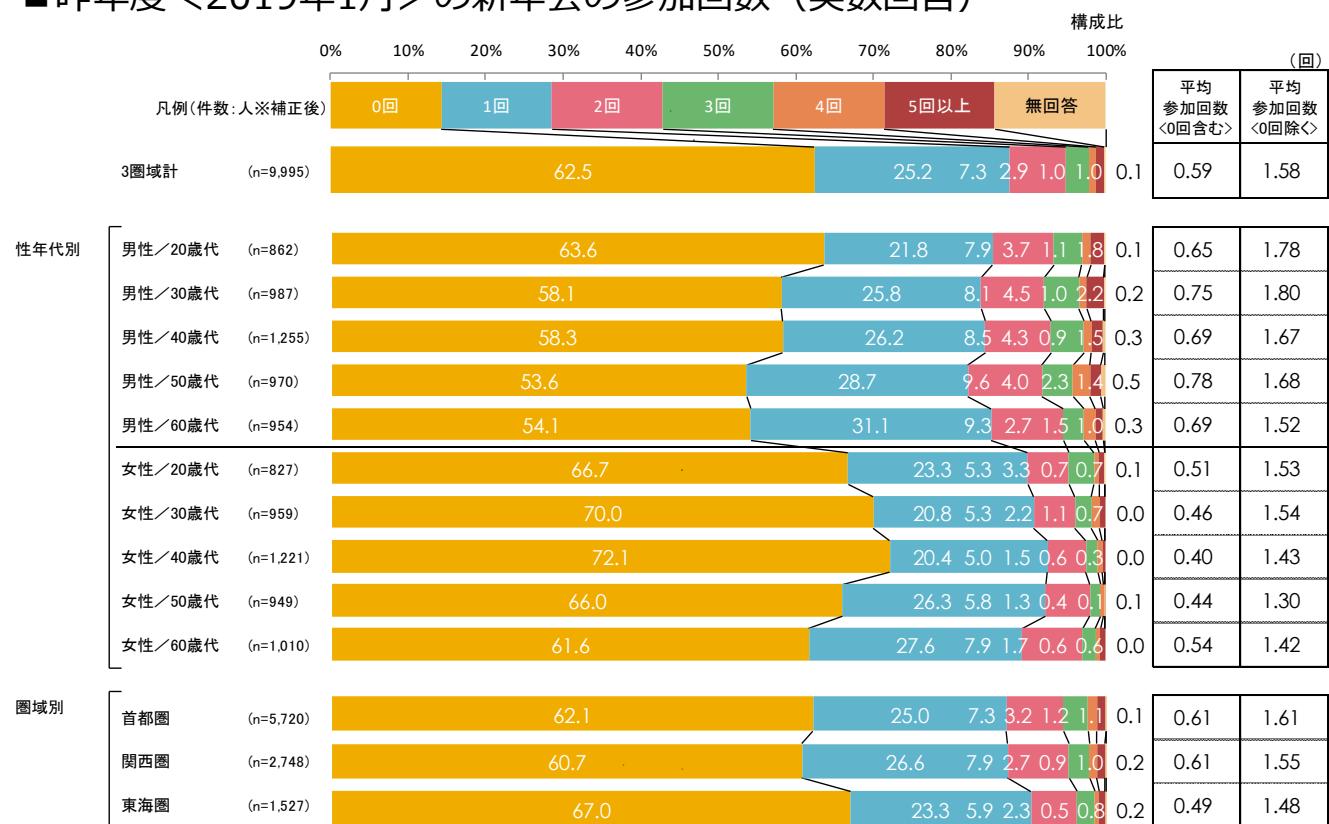
- 参加した：「2018年12月上旬」～「2019年1月下旬」までの各時期のいずれかで1回以上を回答した人
- 参加していない：「2018年12月上旬」～「2019年1月下旬」までの全ての時期で0回を回答した人

【参考】昨年度<2018年12月～2019年1月>の忘・新年会参加回数

■昨年度<2018年12月>の忘年会の参加回数（実数回答）



■昨年度<2019年1月>の新年会の参加回数（実数回答）



※今回(2019年)調査で聴取

※「平均参加回数」は、上下0.1%の範囲のデータを無効回答として集計している。

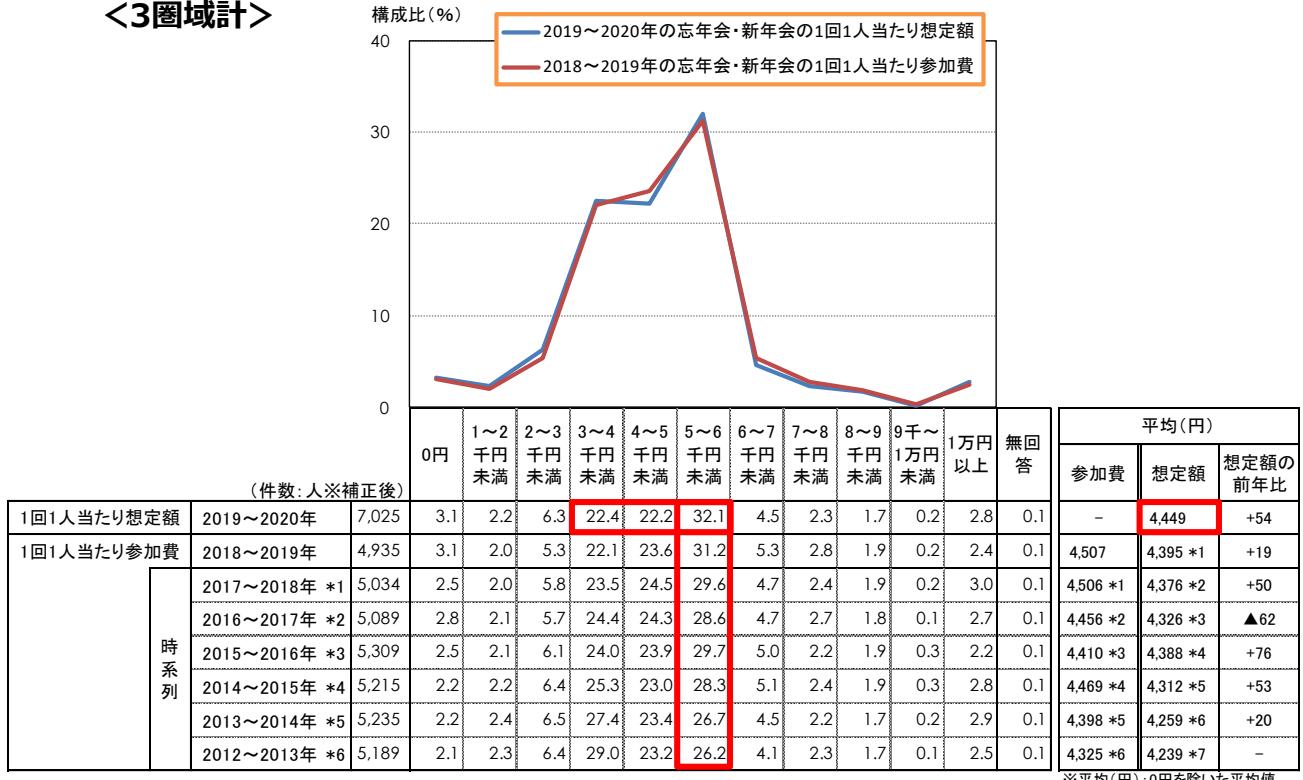
2. 忘・新年会予算（1回当たり）は3年連続で増加の見込み（前年比+54円）。ただし、消費税増税分を勘案すると、実質微減の可能性も

忘・新年会の予算について、昨年度に実際に使った金額と今年度の想定予算を聞いた。想定予算では、1回当たり「5,000円～6,000円未満」（32.1%）が最も多く、「3,000円～4,000円未満」（22.4%）と「4,000円～5,000円未満」（22.2%）と合わせてボリュームゾーンとなっている。1回当たり「5,000円～6,000円未満」の数値は2012年の調査開始以来、最高の比率を記録した。「0円（自分で払わない）」を除く今年度の想定額は4,449円（前年比+54円、増減率+1.2%）と3年連続してプラス予想となった。実際に使った金額を見ても経年で増加傾向にあるため、今年度も参加費は増加の予想と言ってよさそうだ。ただし、今年度は10月に消費税の増税があり、上記の増減率では増税分に匹敵しないため、実質では前年比マイナスと捉えることもできる。圏域別（次ページ）では、東海圏のみが前年度比の増減率で増税分を超える単価アップ（4,448円、前年比+96円、増減率+2.2%）の予測となっている。過去の実績（同じ年の参加費と想定額の差）を見ると、実際の参加費は事前の想定より高くなる傾向があるため、結果的には増税分を超えて増額という可能性もあるかもしれない。

■忘・新年会の1回当たりの参加費（支出実績）と想定予算（想定額） (2012年忘年会～2020年新年会、実数回答)

※想定額は参加する機会がありそうな人の回答、参加費は参加者の回答

<3圏域計>



※平均は「0円（自分で払わない）」を除いて集計。

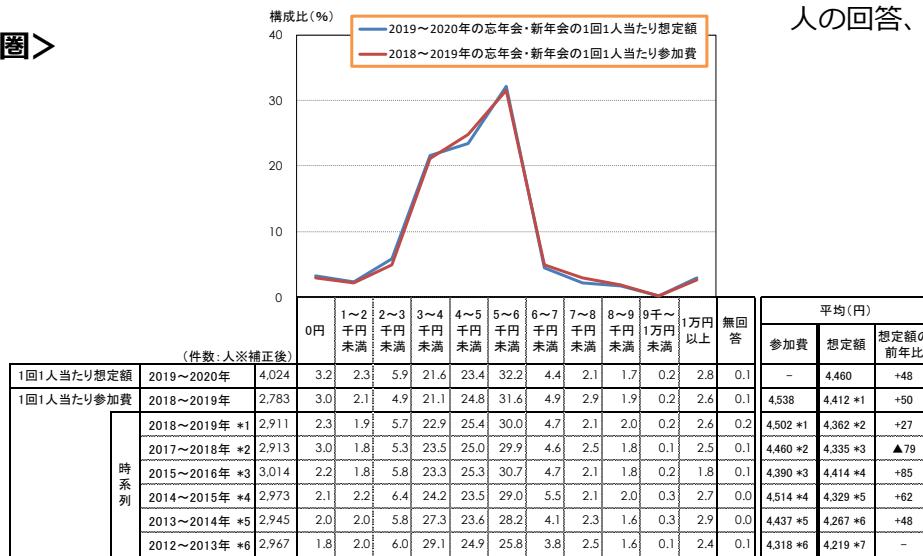
※各費用の上下0.1%の範囲のデータを無効回答として集計している。

※想定額は「自分で払ってもいい額」として聞いている。

※参加費は「自分で払っていなくても会にかかった1人当たりの金額」を聞いている。

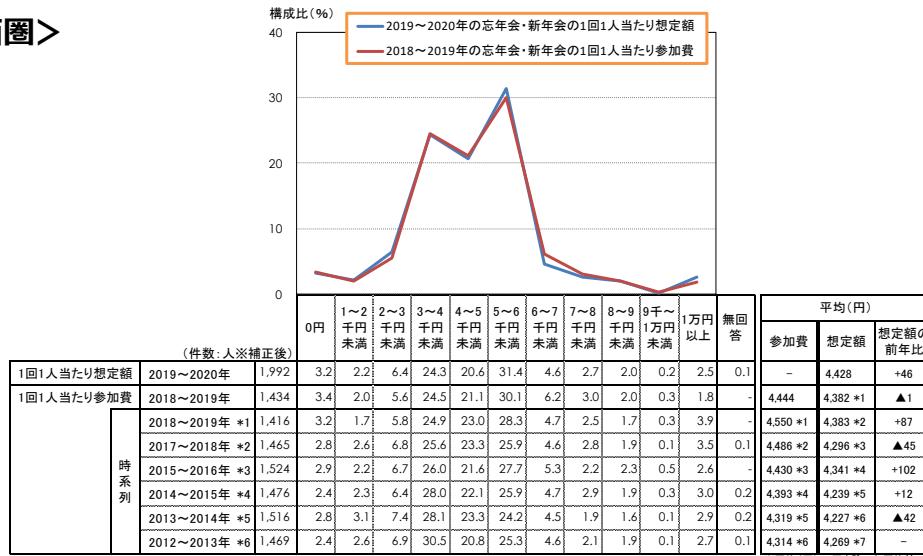
■忘・新年会1回当たりの参加費（支出実績）と想定予算（想定額） (2012年忘年会～2020年新年会・圏域別、実数回答) ※想定額は参加する機会がありそうな人の回答、参加費は参加者の回答

＜首都圏＞



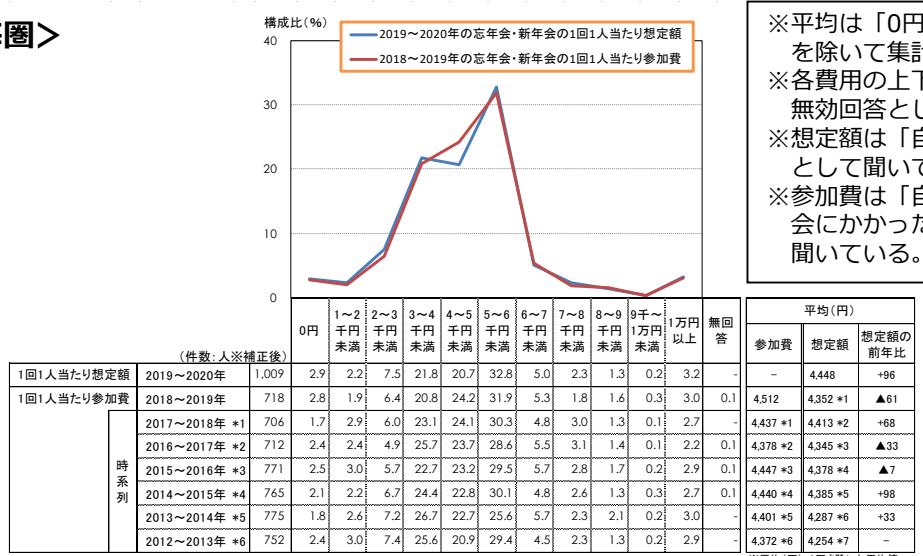
*1: 2018年調査で賃取
*2: 2017年調査で賃取
*3: 2016年調査で賃取
*4: 2015年調査で賃取
*5: 2014年調査で賃取
*6: 2013年調査で賃取

＜関西圏＞



*1: 2018年調査で賃取
*2: 2017年調査で賃取
*3: 2016年調査で賃取
*4: 2015年調査で賃取
*5: 2014年調査で賃取
*6: 2013年調査で賃取

＜東海圏＞



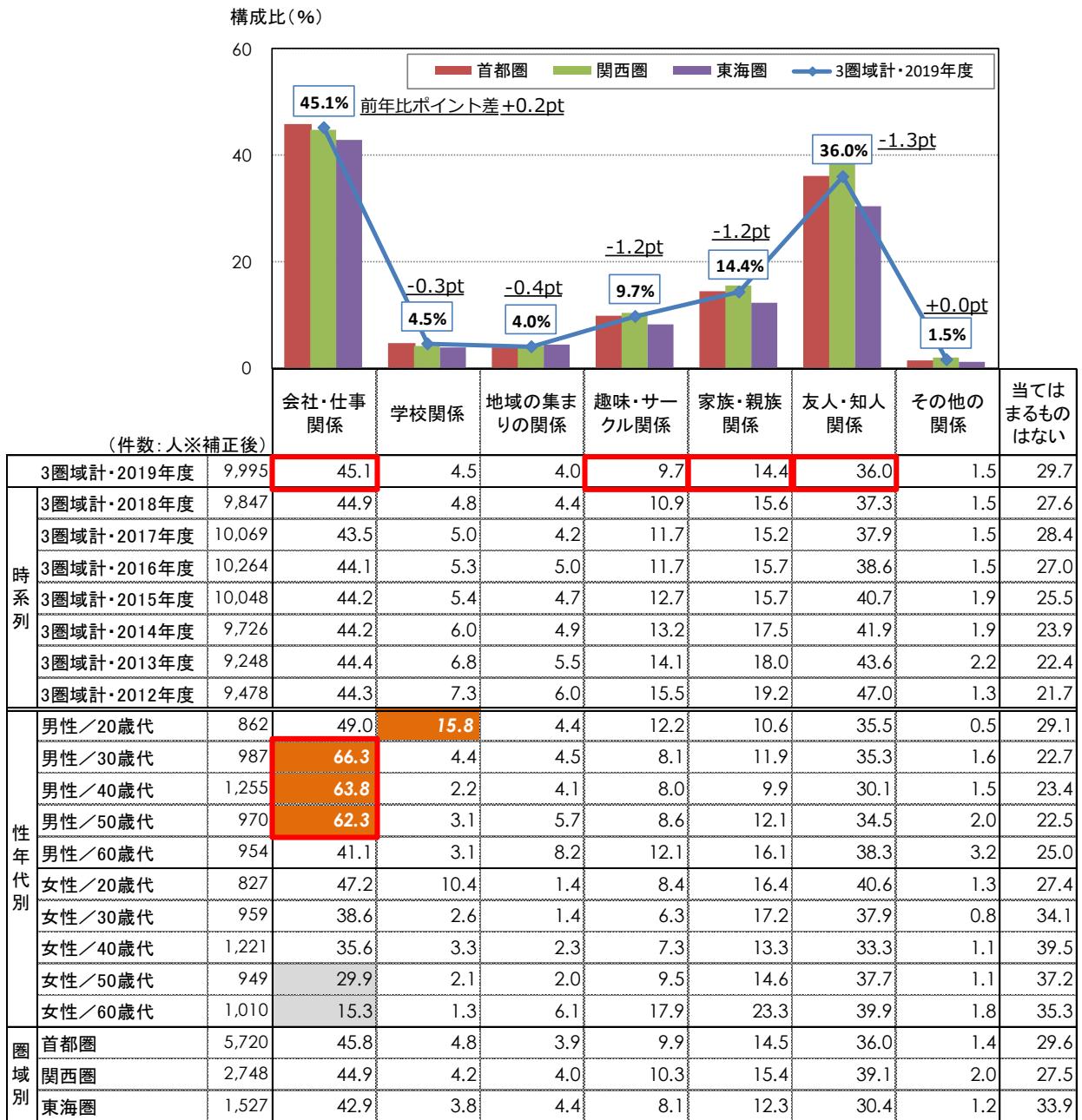
*1: 2018年調査で賃取
*2: 2017年調査で賃取
*3: 2016年調査で賃取
*4: 2015年調査で賃取
*5: 2014年調査で賃取
*6: 2013年調査で賃取

※平均は「0円（自分で払わない）」を除いて集計。
※各費用の上下0.1%の範囲のデータを無効回答として集計している。
※想定額は「自分で払ってもいい額」として聞いている。
※参加費は「自分で払っていない会にかかった1人当たりの金額」を聞いている。

3. 「会社・仕事関係」で実施する忘・新年会の予定が過去最高の45.1%

今年度、誰と忘・新年会を行う予定かを聞いた結果、3圏域合計で最も多かった相手は「会社・仕事関係」で45.1%と過去最高値を記録し、次いで「友人・知人関係」が36.0%だった。昨年度の調査でも「会社・仕事関係」は過去の調査結果と比べて最高値だったが、2年連続で過去最高値を更新したことになる。「会社・仕事関係」の忘・新年会参加予定が多いのは、30~50代男性であり、逆に50・60代女性では少なく、就業率との関連が強そうだ。一方、「友人・知人関係」は前年比-1.3ポイントと、調査開始以来、年々減少している。他では、経年で減少傾向にある「家族・親族関係」(14.4%、前年比-1.2ポイント)、「趣味・サークル関係」(9.7%、前年比-1.2ポイント)は今年度もマイナスの傾向であった。

■今シーズンに参加する機会がありそうな忘・新年会の相手 (複数回答)



太字 3圏域計より10ポイント以上高い項目

3圏域計より10ポイント以上低い項目

※「3圏域計・2018年度」は2018年調査、「3圏域計・2017年度」は2017年調査、「3圏域計・2016年度」は2016年調査、「3圏域計・2015年度」は2015年調査、「3圏域計・2014年度」は2014年調査、「3圏域計・2013年度」は2013年調査、「3圏域計・2012年度」は2012年調査で聴取したもの

※前年比ポイント差:「(3圏域計・2019年度)-(3圏域計・2018年度)」で算出